

香川県における水稲品種の穂発芽とその発生要因

藤田究・井之川育篤・石井清文

香川県における主要な水稲品種の穂発芽性の品種間差異や穂発芽の発生条件等を調査し、穂発芽の発生要因並びにその回避対策について考察を行った。

1. 穂発芽性には明らかな品種間差異が認められた。例えば、コトミノリ、コガネマサリは穂発芽易、コシヒカリ、ヒノヒカリは穂発芽難、そしてキヌヒカリ、黄金晴はそれらの中間であった。
2. 1穂内で籾の着生位置による穂発芽性の差異を見ると、穂先に近い強勢穎花ほど穂発芽しやすく、穂首に近い弱勢穎花ほど穂発芽しにくかった。
3. 収穫時期が遅くなるにつれて穂発芽しやすくなる傾向が認められた。成熟期前では穂発芽は比較的少なかったが、成熟期を過ぎるにしたがって穂発芽しやすくなった。
4. 穂発芽は成熟期を過ぎた穂発芽性易の品種において、高温・高水分条件下で発生しやすい。このため、栽培面で穂発芽を回避するためには、適期収穫に留意することや適正な肥培管理によって登熟ムラを発生させたり、倒伏させたりしないこと等が考えられる。